

■10. 20丸21年

あの10, 20から丸21年が経ちました。豊岡市内の小・中・義務教育学校では、「メモリアルデー」ということでさまざまな授業が行われることとなっています。

21年前のこの日、たくさんの方が避難所に避難しました。しかし、これでもう大丈夫というわけではありません。ライフラインが途絶えてしまったのです。私自身が避難所運営に携わっていた五荘小学校でも、食べ物が到着したのは翌21日（木）の夕方でした。毛布などの防寒グッズも十分ではなく、避難していた人々には寒い夜を過ごしてもらっていました。本当に申し訳ないことでした。その後、たくさんの方ボランティアの人々の炊き出しなどにより、ライフラインが回復しました。

これでもう大丈夫かと言えば、そうではありません。浸水の被害を受けてしまった家の後片付け、さらにはゴミの山の処理が大きな問題となりました。しかしこれを救ったのも、ボランティアの人々です。

被害の大きかった地区の公民館長さんはこんなことをボランティアの人々が乗った帰りのバスのなかで言っています。

「……今日は本当にありがとう。こんなに大きな災害は初めてです。それにもまして、こんなに大きな喜びも初めてです。ありがとうございました。……」

さまざまな救援物資が豊岡に届けられましたが、そのなかに600本のバラの花がありました。中貝元市長さんは言います。

「……ある日、いつもとはなんか違う感じがしました。よくよく見てみると、ところどころにバラが生けてあるのです。イライラとしていたわたしの心が、そのバラを見ると不思議なほど落ち着きました。自然って、人間の心を和ませる力があることを改めて知りました。……」

大きな災害をもたらした円山川ですが、のじぎく国体のボート会場ともなりました。また、円山川の柳をヒントとした柳行李から豊岡のカバン産業が生まれました。コウノトリのふるさとでもあります。

先の中貝元市長さんはこんなことも言われていました。

「……翌21日の朝、ヘリコプターからすっかりと泥の湖となってしまった豊岡のまちを見て、正直ビックリしました。しかしわたしは思ったのです。こんなことに豊岡は負けないぞ、豊岡の人々は絶対に負けないぞ。……」

府中っ子の皆さんも、「メモリアルデー」のこの日、命について、自然との共生について考える絶好の機会となったことでしょう。改めて、「自分を大切に」「友だちを大切に」に日々を過ごしてもらいたいものです。



（校長 山本 考一）

校長ブログ：府中っ子の学校での様子をお伝えします。（パスワード：

学校教育目標「自分を伸ばす みんなで高め合う 府中っ子～「自分事」「自分たち事」となる学びの創造～」

PTA スローガン「絆とつながり～学校と地域で子どもたちの未来を育む～」